

平成23年6月10日招集

平成23年  
第2回壱岐市議会定例会

# 行政報告

壱岐市

# 目 次

はじめに	1
(1) 東日本大震災について	1
(2) 原子力防災に対する取り組みについて	3
(3) 職員の懲戒処分について	4
(4) 第108回九州市長会について	5
(5) 離島振興について	6
(6) 吉岐市ケーブルテレビについて	6
<b>交流人口・定住人口の拡大</b>	
(1) 観光振興について	7
(2) 各種イベントについて	8
<b>市民・福祉</b>	
(1) 吉岐市特別養護老人ホーム建設予定地の見直しについて	9
(2) 市税等の収入状況について	9
<b>産業の振興</b>	
(1) 農・水産業の振興について	11
(2) 雇用対策について	12
<b>教育</b>	
(1) 新中学校の状況について	12
(2) 学校給食施設整備事業について	13
<b>医療</b>	
(1) 吉岐市民病院について	13
(2) かたばる病院について	15
(3) 市立病院改革について	16
<b>消防・救急</b>	16
<b>議案説明</b>	
(1) 補正予算について	17
(2) その他の議案について	18
おわりに	18

# 行政報告

平成23年第2回 壱岐市議会定例会

## はじめに

本日ここに、平成23年第2回市議会定例会を招集いたしましたところ、議員皆様には、ご健勝にてご出席を賜り厚く御礼申し上げます。

### (1) 東日本大震災について

3月11日発生した東日本大震災におきましては、1万5千人以上の方々が犠牲となられ、8千人以上の方々が、未だ行方不明となっております。さらに9万8千人以上の皆様が、依然厳しい避難生活を余儀なくされておられます。ここに改めて、犠牲となられた皆様に対し、心からご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

本市といたしましては、市民皆様、議員各位のご理解、ご協力をいただき、被災地復興支援を行ってまいります。まず人的支援として、3月13日に長崎県防災航空隊派遣の消防職員1名が、長崎県防災ヘリで被災地へ派遣され、続く3月14日から3月24日まで、長崎県緊急消防援助隊として、消防職員3名と救急車1台を岩手県くじ久慈市へ派遣したところであります。さらに5月25日から6月8日まで、宮城県石いしのまき巻市へ長崎県被災者支援チーム第5陣として2名の事務職員を派遣いたしました。今後6月18日から7月2日まで、同じく宮城県石いしのまき巻市へ同チーム第7陣として2名の事務職員を派

遣し、さらに6月25日から7月1日まで、福島県<sup>にほんまつ</sup>二本松市へ保健師2名、事務職員1名の派遣を予定しております。

また物的支援として、3月28日から、市民皆様からの救援物資の受付を開始し、レトルト食品等55箱を、長崎県を通して被災地へ搬送いたしました。

次に被災者皆様の本市への受入として、3月28日から福島県<sup>ふたば</sup>双葉郡より1世帯2名、4月7日から茨城県<sup>かしま</sup>鹿嶋市より1世帯5名の受入を行っております。

次に義援金であります。3月14日から各庁舎、事務所そして社会福祉協議会の16箇所に募金箱の設置を行い、6月8日現在、2,278万1,847円の募金をいただき、日本赤十字社長崎県支部を通じて送金を行っております。また3月29日には、長崎県市長会で、東北地方3県に対し合計1,500万円、うち本市負担分は59万5,190円であり、直ちに送金を行っております。さらに本定例会におきまして、壱岐市として100万円の義援金を予算計上しておりますので、ご審議賜りますようお願い申し上げます。

今後は、被災された皆様への、早期の生活再建を支援するため、6月28日から7月4日までの予定で、「長崎壱岐生き応援隊」として、官民協働のボランティアバスを運行するため、所要の予算を専決し、本定例会に報告をさせていただいておりますので、併せてご審議賜りますようお願い申し上げます。

先に申し上げましたとおり、多くの皆様が、家族を失い、家や財産を失い、多くの子どもたちが、未だ満足な教育も受けられない状況

にあります。本市としては、今後、被災地へ出来る限りの復興支援を行ってまいりますので、ご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

## (2) 原子力防災に対する取り組みについて

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の甚大な事故は、発電所から20km圏内の避難指示と30km圏内の屋内退避指示が発令され、さらに約40km離れた飯舘村も計画的避難区域に指定されるなど、これまでの原子力政策を根本から揺るがす極めて深刻な事態となっています。

本市は、九州電力玄海原子力発電所から海を隔てて約25kmの位置にあり、万一、異常事態等発生した場合、放射性物質の多量の到達が懸念され、身体はもちろん本市の基幹産業である農漁業への影響など、壊滅的な被害の恐れがあります。このため、九州電力(株)及び国、県に対し安全性の確保、情報の公開、住民説明会の実施、さらに内閣府原子力安全委員会が定めた防災指針に基づく「防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲」E P Zの見直し等の要望を行っております。

まず4月21日に、市議会議長とともに、九州電力(株)に対し、安全確保に関する要望書の提出を行い、5月16日には、佐世保市、平戸市、松浦市との4市長共同で、長崎県知事に対し、E P Zの早期見直しについて国への要望、原子力防災資機材についての十分な対応、県と一体となった原子力防災訓練の実施等要望を行ったとこ

るであります。さらに5月19日日本市で開催の九州市長会において「原子力発電所の安全対策に関する緊急決議」を行い、6月6日には、上京して、長崎県選出国會議員に対し、松浦市長とともに長崎県を代表し、E P Zの見直しをはじめとした要望を行いました。

九州電力(株)は、5月17日に、原子力発電所に関する安全対策等の現況説明に来庁しましたが、これまでの要望に対する回答にはなっておらず、5月30日付で、住民説明会の開催について、回答期限を定めて再要望を行ったところであります。

本市といたしましては、5月30日に、部長等で構成する壱岐市原子力防災対策会議を立ち上げ、原子力対策をはじめとした防災計画の修正等関係機関との連携を図るべく、情報の共有を図ったところであります。

これらは壱岐市にとって極めて重要な問題であり、今後も市民皆様、議員各位そして関係機関と十分連携を図り最大限の対策を講じてまいりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### (3) 職員の懲戒処分について

去る4月23日に飲酒運転による交通事故を起こした消防職員に対し、5月28日付で任命権者である消防長名で、懲戒免職処分を行うとともに、管理監督者に対し訓告1名の処分を行い、また壱岐市長名で、消防長に対し、戒告処分を行ったところあります。

日頃から交通安全を推進し、また飲酒運転の撲滅に取り組むとともに、職員には綱紀肅正を強く求めていたところありますが、こ

のような不祥事を引き起こしたことは、全体の奉仕者たる公務員にあるまじき行為で誠に遺憾であり、市民皆様に心からお詫び申し上げます。

また4月26日に発生した郷ノ浦庁舎の火災については、子どもの火遊びが原因でありましたが、郷ノ浦庁舎の管理責任として職員2名を訓告処分とするとともに、私自身の処分として、1ヶ月の給与10%カットを行うべく、関係条例の改正を本定例会に提出しております。

職員の意識改革とともに、各庁舎管理規定の見直しを行い、早急に市民皆様の信頼を取り戻せるよう職員一丸となって再発防止に全力で取り組んでまいります。

#### (4) 第108回九州市長会について

5月19日から5月20日にかけて、本市で開催された九州市長会は、九州沖縄118市中、107市の参加を得て、総勢306人の関係皆様にご参加いただきました。沖縄県を除く離島で初めての開催であり、交通の便等心配しておりましたが、絶好の天気にも恵まれ、喜びの声、感謝の声をいただきました。また宿泊施設をはじめ本会に携わっていただいた関係皆様、そして壱岐市職員の対応等にお褒めの言葉を数多くいただき、壱岐市で開催できたことを誇りに感じているところであります。今後も、こうした機会を利用し、「おもてなしの心」を持って市民皆様とともに、交流人口の拡大に努めてまいります。

## ( 5 ) 離島振興について

5月25日に開催された長崎県離島振興協議会通常総会において、役員改選が行われ、壱岐市長である私が、会長に就任をいたしました。また6月1日に開催された全国離島振興協議会において、同じく役員改選により、副会長に就任をいたしました。離島振興については、昭和28年離島振興法制定以来、政府、国会、県の強力な支援により、離島地域の生活・産業基盤は着実に改善されていますが、未だ離島地域は、人口の極度の減少、離島交通の確保、離島医療の確保等深刻な課題に直面しております。また離島地域は、領土保全、海洋権益確保の観点からも、国家における重要な役割を果たしています。また平成25年3月には、離島振興法が失効するため、本法律の改正・延長を実現しなければなりません。こうした多くの課題解決に向け、長崎県また全国離島振興協議会の果たす役割は極めて大きいと認識しております。離島振興のため、そして郷土壱岐発展のため、議員各位のご協力をいただきながら、精一杯努めてまいりますので、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

## ( 6 ) 壱岐市ケーブルテレビについて

4月1日に開局した壱岐市ケーブルテレビにつきましては、市民皆様が主役となる放送局を目指し放送を開始しております。

各種イベント等をはじめ多くの市民皆様にご出演いただくとともに、市職員も、市政情報等を市民皆様にわかりやすくお知らせする

ため、番組に自ら出演しております。さらに本議会定例会から議会本会議の様子をリアルタイムに放送することといたしました。これにより、市民皆様に正確な情報をお伝えするとともに、市政がより身近なものになることを期待しております。

また今後、より多くの皆様にご出演いただけるよう指定管理者とも連携を図ってまいりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

## 交流人口・定住人口の拡大

### (1) 観光振興について

彦岐市の観光振興につきましては、長引く経済低迷と東日本大震災が大きく影を落としており、平成22年の観光客延べ数(平成22年観光客数調査より)は55万219人(対前年99.3%)で厳しい状況でありました。

このような中、一支国博物館の入場者数は、オープンから本年5月末現在で総計158,646人(うち本年度10,699人)で、市民皆様をはじめ多くの皆様にご来館いただいております。

また市内の主要観光地でありますイルカパークについては、4月に和歌山<sup>たいじ</sup>県太地町よりイルカ3頭を導入し、現在、本施設の集客力アップに向けた調教飼育を実施しております。

次に教育旅行の誘致については、本年度、現時点で39校、約4,700人の生徒が本市を訪れる予定であります。昨年度より7校、約50人の減ではありますが、少子化が進む中で、景気低迷の影響

も受けた教育旅行予算の減少傾向の中では、健闘している状況であると認識しております。

また本年4月末に開所した壱岐市福岡事務所「Iki Iki 情報プラザ」については、臨時雇職員を含め3名体制で観光宣伝や紹介及び観光客の誘致等の業務にあたっており、開所以来5月末までに約1,300人の皆様にご来所いただく等手応えを感じております。

今後とも壱岐にしかない貴重な歴史資産と豊かな自然景観等を活かした観光振興に努め、さらなる交流人口の拡大と壱岐の活性化に繋げてまいります。

## (2) 各種イベントについて

第23回壱岐サイクルロードレース・同チャレンジロードレース・第11回ジュニアチャレンジロードレースについては、今回、昨年の口蹄疫による大会中止の影響を心配していましたが、島内外から大会関係者を含め約1,000人の皆様にご参加いただき、大きな事故もなく、無事終了することが出来ました。

また昨年に引き続き、来る7月23日には本市で「よしもと新喜劇」が開催される予定であり、市民を笑いで元気にするイベントとしてすでに島内外で入場前売券が販売されております。

今後も関係皆様と連携を図り、市民参加型のイベント等の開催により、壱岐を元気に、そして島外への情報発信に繋げ、壱岐の活性化に努めてまいります。

国民宿舎壱岐島荘については、施設の老朽化が目立ち、宿泊等に

種々支障をきたしておりました。このため施設のリニューアル工事を計画し、本議会に関連予算等を提案いたしておりますので、ご審議賜りますようお願い申し上げます。

## 市民・福祉

### (1) 壱岐市特別養護老人ホーム建設予定地の見直しについて

壱岐市特別養護老人ホームの建設については、東日本大震災を受け、当初予定地の埋立地に建設することの適否について、議会に協議をお願いしたところであります。専門家の知見によると現計画地は適当でないという結論でありますので、計画変更やむなしと考えておりますが、この際、待機者数、県の参酌基準の撤廃等を考慮し、増床や施設分散をも検討すべきであると考えております。今回、所要の予算を計上しておりますので、ご審議賜りますようお願い申し上げます。

### (2) 市税等の収入状況について

平成22年度の市税の収入状況は、

現年度分調定額 22億2,820万円

に対し、収入額 21億8,137万円

で、収納率は97.90%（前年度97.86%）

前年度対比プラス0.04ポイントであります。

滞納繰越分調定額 3億1,062万円

に対し、収入額 3,243万円

で、収納率は10.44%（前年度7.99%）

前年度対比プラス2.45ポイントであります。

国民健康保険税は、

現年度分調定額 8億8,582万円

に対し、収入額 8億3,625万円

で、収納率は94.40%（前年度94.13%）

前年度対比プラス0.27ポイントであります。

滞納繰越分調定額 3億3,439万円

に対し、収入額 3,297万円

で、収納率は9.86%（前年度9.48%）

前年度対比プラス0.38ポイントであります。

以上が平成22年度市税の決算収入額であります。

県内の景気の動向は、雇用情勢が厳しい状況ながら、やや持ち直しているものの、総体的に県内の主要観光施設の入場者数の減少等マイナス面が目立ち、さらに震災の影響から不透明感が高まると見られております。

本市においても、観光客の減少と基幹産業である第一次産業の低迷等、依然、厳しい状況にあります。

こうした中、市民皆様の納税に対するご理解とご協力によりまして、市税及び国民健康保険税の現年度分・滞納繰越分、全て前年度収納率を上回ることが出来、厚くお礼申し上げます。

一方、滞納者に対しましては、県税務職員との連携を図りながら、搜索・差し押さえ等の滞納処分の強化に努め、地元での「動産公売

会」やインターネット公売を実施してきました。

地元での公売会は、年2回開催し、合計89品目の36万1千円、インターネット公売では、80%の高い売却率で123品目の39万9千円を税に充当したところであります。

今後とも、貴重な自主財源である市税の確保と効率的な滞納整理を行い滞納額の圧縮に努めるとともに、公平・公正な税政の実現により一層努力をいたす所存であります。

## 産業の振興

### (1) 農・水産業の振興について

肉用牛については、6月子牛市の販売額が3億4,323万2千円、平均価格が前回市と比較し、1頭当たり約2万円減の42万1千円となっております。

葉たばこについては、移植後の<sup>おそじも</sup>遅霜及び強風による被害が発生しましたが、全体的には順調な生育状況であります。また麦については、春先の低温・追肥時期の遅れに伴い例年と比較して、やや収量減の見込みであります。

今後も、農家・農業者皆様そして関係機関と連携を図り、農業振興に努めてまいります。

次に、昨年、市民皆様の憩いの場として、多目的に使用することを目的に、ご寄付いただきました芦辺漁港用地の芝生化については、全体の半分の緑化が終了し、残りは本年7月までに工事が終わる予定であり、工事完了次第供用を開始出来るものと考えております。

## (2) 雇用対策について

雇用対策として、本年4月から5月末までの間で「長崎県ふるさと雇用再生特別基金」及び「長崎県緊急雇用創出事業臨時特例基金」を活用した事業を11件実施し、35人の新規雇用を確保いたしました。

また新たに、特定健診の受診率を向上させるための普及員を雇用する事業を実施予定であり、本年度、合計で122人の新規雇用を確保できる予定であります。

さらに誘致企業「マツオ」の従業員増員計画により、受入施設の整備が急務であるため、勝本町給食センターを企業誘致用施設として利用するため、今回所要の予算を計上しておりますのでご審議賜りますようお願い申し上げます。

## 教育

### (1) 新中学校の状況について

4月6日に、新しい4中学校が開校し、2か月が過ぎました。

当初心配していた混乱もなく、生徒たちは、それぞれの中学校で、落ち着いた雰囲気のもと、元気に学校生活を送っています。

また5月14日、15日の両日、開校後初めて開催された中体連の球技、剣道大会では、色違いのジャージを着た生徒たちが、仲良く入り交じり、在学校の試合を一所懸命応援し、また選手も力いっぱい試合を展開していました。

このように、新しい中学校での学習やスポーツが4つの中学校の

新たな校風を作っております。生徒たちの元気で、さわやかな姿が頼もしく感じており、今後も市民皆様で子どもたちを見守っていただきますようお願い申し上げます。

## **( 2 ) 学校給食施設整備事業について**

新学校給食センターと原島調理場は、ともに9月2日供用開始に向け、鋭意準備を進めておりますが、新学校給食センターの機械及び排水設備工事において、本施設周辺地域の水源地からの水圧と新学校給食センターにおける水道使用量の関係で、周辺地域への送水量不足が懸念されるため、本施設内に40 tタンクの設置を行う必要が生じました。このため現契約の変更を行うこととし、今後、追加で関連議案を提出することとしておりますので、ご審議賜りますようお願い申し上げます。

## **医療**

### **( 1 ) 壱岐市民病院について**

#### **診療体制について**

4月からの診療体制は、昨年4月より1名減員の12名の常勤医師体制であり、その内訳は内科3名、外科2名、精神科1名、整形外科3名、小児科1名、産婦人科1名、眼科1名となっております。整形外科が1名増員しましたが、内科、精神科はそれぞれ1名減員であり、極めて厳しい診療体制となっております。加えて、6月1日付で外科医師が1名退職し、7月15日付で精神科医師の派遣中止

となります。

昨年 10 月に九州大学病院精神科医局から常勤医師の派遣中止の連絡を受け、これまであらゆる方策を講じ、精神科指定医の確保に鋭意努力を重ねてまいりましたが、今日までそれが実現出来ず、断腸の思いであります。地域医療、離島医療を堅持していくためには一定数の常勤医師の確保が必須条件です。その根本的な条件が満たされない市民病院は、さらに厳しい状況になり、いよいよ抜本的な方向転換が必要な時期に来ていると認識しております。

市民病院の精神科医療については、入院患者様をまず最優先して退院調整を予定どおり進めております。患者様のご家族への説明会を 2 回開催し、また 5 月中にご家族の個別面談を行いました。6 月 8 日現在、全ての患者様の希望先の医療機関や退院が決定しております。これまで 37 人の入院患者中、転院・退院が完了した方が 11 人、退院予定の方が 4 人、転院予定の方が 22 人となっており、6 月中には全員受入医療機関へ転院が完了できるよう努めてまいります。精神科の入院患者・ご家族皆様に、ご心配、ご不安をお掛けしないよう、市として責任をもって対応してまいります。

また 7 月 16 日以降の精神科の外来診療については、九州大学の精神科医局と福岡市の民間病院（今宿病院<sup>いまじゅく</sup>）から非常勤医師の応援をいただき 8 月末までは月曜日から金曜日まで、これまでどおり外来機能を継続できるようになっております。9 月以降はまだ決定しておりませんが、週 3 日以上は外来診療が出来るよう交渉中であります。

## 運営状況について

平成23年4月から5月の運営状況については、患者数実績として、一般病棟の入院患者が1日平均91.9人で当初計画の95.1人に対し3.2人の減で病床利用率は76.6%となっております。一方、精神科病棟の入院患者が1日平均33.4人で当初計画の31.4人に対し2人の増で病床利用率は47.7%となっております。また外来患者は1日平均366.6人と健診4.6人の合計371.2人で当初計画の359.3人に対し11.9人の増となっております。

## (2) かたばる病院について

### 診療体制について

診療体制については、内科医長が昨年3月31日に退職され、現在、常勤医師1名(院長)体制であり、非常勤医師として外来診療援助の医師2名と週末当直の非常勤医師4名を長崎医療センター並びに民間の医師斡旋会社の協力により実施しておりますが、早急に常勤医師1名の確保に向けて努めてまいります。

### 運営状況について

平成23年4月から5月の運営状況については、入院患者が1日平均47.5人で当初計画の46.5人に対し1.0人の増で病床利用率は98.9%とほぼ満床状態であります。

また、外来患者は1日平均35.3人と健診が2.6人の合計37.9人と当初計画の30.6人に対して7.3人の増となっております。

おります。

### (3) 市立病院改革について

市民病院の経営の安定と安全・安心の医療サービスの提供を図るため、安定した医師確保ができる経営体制の構築を目指して取り組んできましたが、当院を取り巻く医療環境は年々厳しい状況が続き、大学医局の医師引き上げによる医師不足は、診療体制に大きく影響し非常勤医師で補いながら、どうにか維持している状況であります。

医療提供体制の充実及び経営の効率化を図るため、改革の第1段階として、かたばる病院を市民病院へ機能統合することが必要不可欠であると判断し、現在、統合に伴う準備作業を進めております。具体的な統合計画等決まりましたら、改めて議員各位はもとより市民皆様にご報告申し上げご理解を賜りたいと考えております。

このような医療環境の中で離島である当院が安定した病院経営を行うことの難しさを痛切に感じており、早期に経営体制を確立することが喫緊の課題と認識し、今後も引き続き全力で病院改革に取り組んでいく所存であります。

### 消防・救急

平成23年5月末日現在の災害発生状況は、火災発生件数23件、救急出場件数は686件で、昨年同期と比較しますと、火災は9件、救急は12件の増となっております。

また5月1日には、壱岐市消防団第3期の結団式が行われ、割石

新団長のもと、壱岐市消防団のさらなる発展を期待するものであります。

これから、大雨が発生する時期を迎え、災害の発生に十分注意するとともに、災害対策に万全を講じてまいりますので、市民皆様におかれましても、自らの防災対策について確認等お願いいたします。

また、三島地区からの救急要請については、これまで自家用漁船等で、傷病者負担において搬送されていましたが、こうした状況解決のため、本年4月1日から救急要請に伴う高速瀬渡船を利用する分についての費用を本市で負担することとし、急患搬送の改善を行ったところであります。

次に、議案関係についてご説明いたします。

#### (1) 補正予算について

本議会に提出いたしております補正予算の概要といたしましては、

一般会計補正総額 2億6,943万4千円

各特別会計補正総額 7,675万円

となり、本定例会に提出いたしました補正額の合計は、

3億4,618万4千円

となります。尚、現計予算と合算した本年度の一般会計予算は

230億1,574万2千円

で、特別会計につきましては 111億1,919万8千円

となります。

## ( 2 ) その他の議案について

本日提出いたしました案件の概要は、承認 8 件、報告 4 件、条例の制定、改正 4 件、予算案件 5 件、その他 3 件でございます。詳しくは担当部長、課長から説明をさせていただきますが、何卒十分なご審議をいただき、適正なるご判断を賜りますようお願い申し上げます。

## おわりに

以上をもちまして、前定例会以降の市政の重要事項につきまして申し述べましたが、様々な行政課題また緊急に対応しなければならない問題等に対し誠心誠意、全力で取り組んでまいり所存でございますので、議員各位並びに市民皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 2 3 年 6 月 1 0 日

壱岐市長 白 川 博 一